

辯護側書證第一四〇一—G—一號

豊田發野村宛一九四一年八月五日第四四八號

一、説明へ口頭ヲ以テシテ書面ニヨラサルモノトス

佛印共同防衛措置ノ意義性質ハ本大臣及在米帝國大使ノ説明ニ盡クルモ之ヲ要約スレバ第三國ノ容喙ノ畏ナキ平和的且自衛的措置タルノミナラス頃來ノ英米蘭印等ノ對日動向ニヨリ惹起セラレタル日本輿論ノ現状ニ鑑ミ該措置ニヨリ以上ノ對外強硬論ノ爆發ヲ抑制シ延イテハ太平洋ノ平和破壊ノ防止ノ爲ニモ必要己ムヲ得サルノ措置タリ尤モ米政府トシテ右説明ニ拘ラス不安ノ念ヲ一掃シ得ストスルモ一應肯カルルニ付左ノ提案ヲナサントス而シテ右提案ニ付テハ時局ニ鑑ミ速カニ機密「オフレコ」トシテノ商議ヲ行ヒ右ニ關シ合意ニ達セル時ハ之ヲ先般來繼續シ來レル日米國交調停案中ニ適宜組ミ入録ラルルモノトス

何レニモ日台衆國政府ハ兩國間ノ緊張狀態ヲ招來セル各般ノ原因ニ付相

互ノ立場ニ對スル理解的精神及冷靜サヲ以テ檢討ヲ行ヒ軍事の經濟的及政治的不安定ヲ誘發スヘキ事態若クハ原因ノ除去若クハ緩和ニ努ムヘキコト肝要ナリトノ日本政府ノ見解ニ同意ナリト確信ス

二、提 案

(一) 日本政府ハ左ヲ確約ス

イ 極東ニ於ケル米國領土ニ對スル軍事的脅威トナルヘキ原因除去ノ爲メ

其ノ軍隊ヲ南西太平洋地域ニ於テ佛印以外ノ地ニ進駐セシメサルヘク又

又佛印ニ於ケル日本軍隊ハ支那事態解決セハ直ニ之ヲ撤退ス

ロ 比島ニ對シテハ軍事的及政治的脅威ノ原因除去ノ爲メ適當ノ時期ニ其

ノ中立ヲ保障ス但帝國政府及臣民ハ合衆國ヲ含ム一切ノ國ト同等ノ待

遇ヲ受タルモノトス

ハ 東亞ニ於ケル兩國間ノ經濟的不安定ノ原因除去ノ爲メ適當ノ時期ニ其

中亞然債務ヲ償還及廢除及合衆國ヲ含ム一切ノ國ト同等ノ待

(二) 合衆國政府ハ左ヲ確約ス

イ 直接日本國ニ對シ及日本國ノ海外物資輸送ニ對シ軍事的作用成トナルヘキ原因除去ノ爲メ南西太平洋地域ニ於ケル軍事の措置ヲ中止ス又本協定成立ノ際ハ英及蘭印兩政府ニ對シ同様ノ措置ニ出ツヘキコトヲ勸導ス

ロ 兩國間ニ於ケル軍事的政事的及經濟的紛争原因除去ノ爲メ南太平洋地域特ニ蘭印ニ於テ日本國ノ必要トスル天然資源ノ生産及獲得並ニ日本蘭印間懸案ノ解決ニ付日本ト協力ス

ハ 右ト關聯シ日本國ト合衆國トノ間ニ從前ノ正常ナル通商關係恢復ノ爲ニ必要ナル措置ヲ速カニ採ルモノトス

ニ 日本國政府カ (一) ノイニ約セル所ニ鑑ミ合衆國政府ハ速カニ支那事變解決ノ目的ヲ以テ日本國政府ト蔣政權トノ間ニ直接商議開始ノ橋渡シ (Bridge of Peace) ヲナスモノトス又合衆國政府ハ撤兵後ニ於テモ佛

印ニ於ケル帝國ノ特殊地位ヲ容認ス

同 公委 (商議ノ勞頓口頭ヲ以テ念ヲ押シ置クモノトス)

本件商議ハ前類ノ通り機密ニ行フモノナルモ一定ノ時據ニ其ノ一部分
又ハ全部ヲ公表スルコト大局上好マント認メラルルニ於テハ豫メ兩國
ノ合意ニヨリ時期内容體様等一紙ニ付決定ヲ見タル際初メテ之ヲ行フ
モノトス